

5. PAZ内の全面緊急事態 における対応 (案)

＜対応のポイント＞

1. 自家用車による避難ができない住民の移動手段(バス等)を確保し、避難を開始すること。
2. 避難先施設の受入体制を整えること。
3. 安定ヨウ素剤の服用等を指示すること。また、安定ヨウ素剤を持っていない者(紛失等)に、緊急配布すること。

PAZ内の住民の避難先及び住民数

- 施設敷地緊急事態で避難先へ避難した者及び安全に避難が実施できる準備が整うまで放射線防護対策施設で屋内退避を実施している者を除くPAZ内の全住民は全面緊急事態で避難先への避難を実施。
- 松江市の3地区(鹿島地区、生馬地区、古江地区)の住民の避難については、自家用車で避難する住民は、自家用車により大田市内の避難経路所を經由し、避難先に避難。島根地区については奥出雲町内の避難経路所を經由し、避難先に避難。
- バスにより避難する住民は、徒歩等で各地区内の一時集結所に集合し、島根県及び松江市が確保したバスにて、避難経路所を經由し、避難先へ避難。
- 各地区の避難先については、平時から避難計画に関する住民説明会やパンフレットの配布、訓練等を通じて住民に周知。

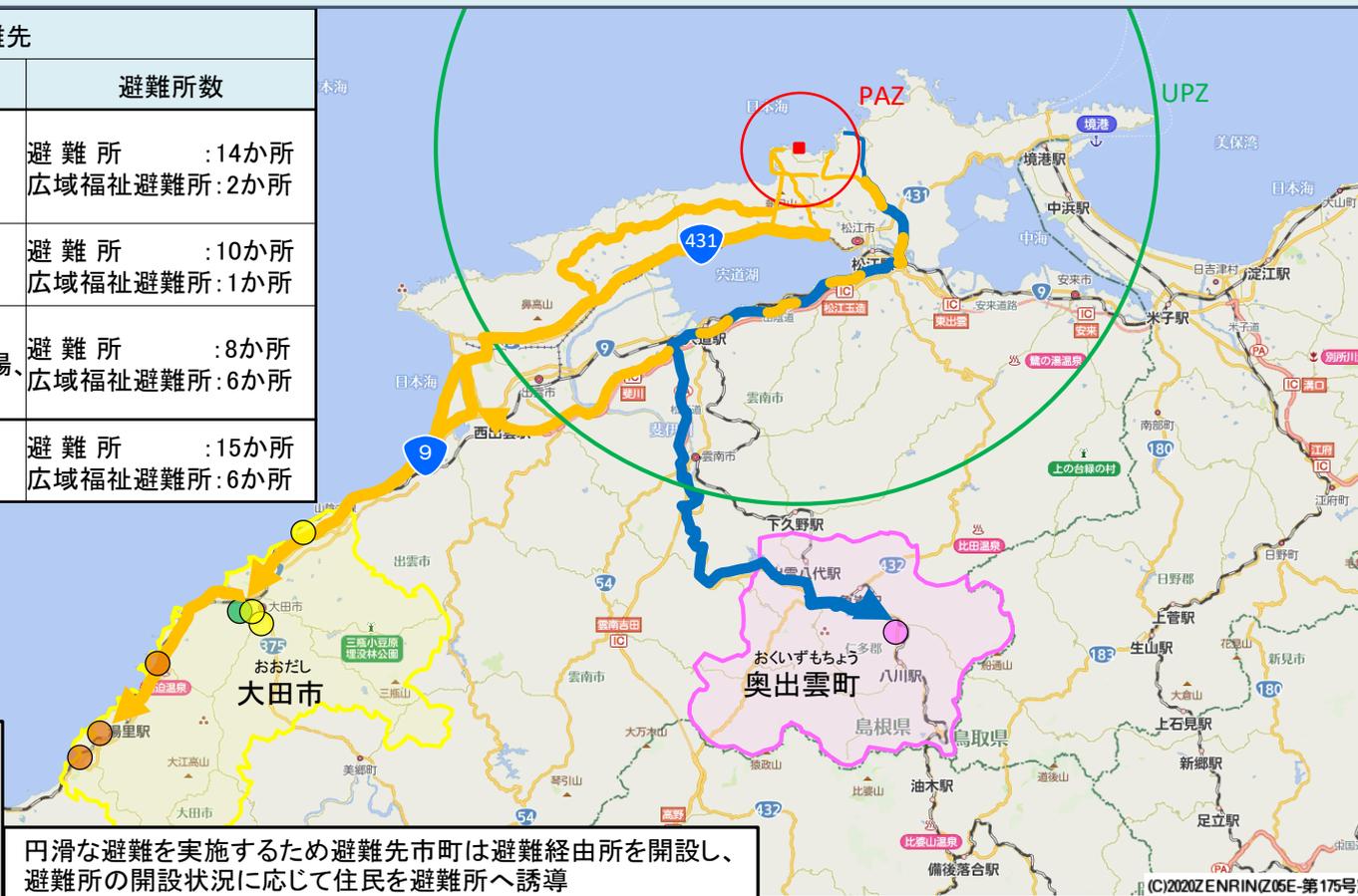
避難元	避難先	
	避難経路所	避難所数
鹿島地区 (6,223人)	大田高校、 第一中学校、 朝波小学校	避難所 : 14か所 広域福祉避難所: 2か所
生馬地区(一部) (1,046人)	長久小学校	避難所 : 10か所 広域福祉避難所: 1か所
古江地区(一部) (1,250人)	旧温泉津中学校、 温泉津地区運動場、 湯里地区体育館	避難所 : 8か所 広域福祉避難所: 6か所
島根地区(一部) (968人)	奥出雲町 横田公園	避難所 : 15か所 広域福祉避難所: 6か所

PAZ内住民数※
合計 9,487人

※施設敷地緊急事態で避難先へ避難した者及び安全に避難が実施できる準備が整うまで放射線防護対策施設で屋内退避を実施している者も含む

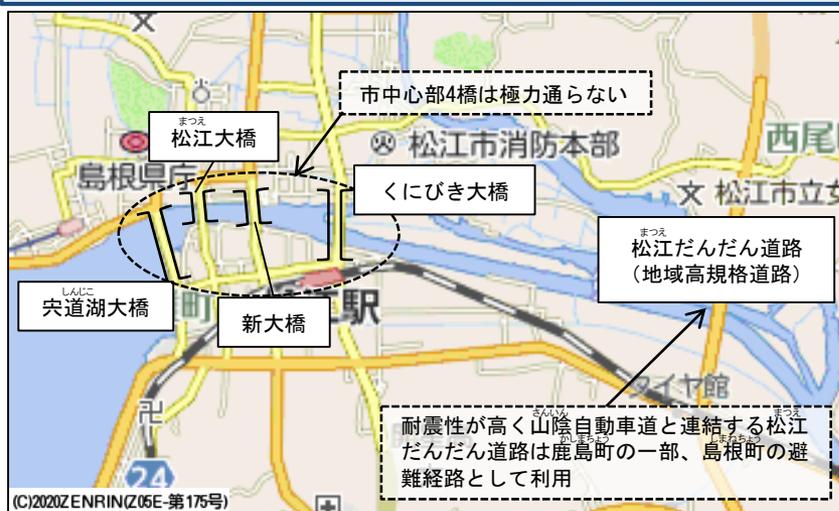
- (凡例) 避難経路所
- 大田市避難経路所(鹿島地区)
 - 大田市避難経路所(生馬地区)
 - 大田市避難経路所(古江地区)
 - 奥出雲町避難経路所(島根地区)

円滑な避難を実施するため避難先市町は避難経路所を開設し、避難所の開設状況に応じて住民を避難所へ誘導



PAZ内の避難経路

- 宍道湖・大橋川で南北に分断される地形となっている松江市内中心部での渋滞を回避するため、松江市橋北エリアの避難経路について、以下をポイントに設定。
 - ①道路規格が高く、地震による被害を受けにくい幹線道路を中心とすること。
 - ②交通信号機の多いエリアはできるだけ通行させない避難ルートとすること。
 - ③市中心部の4橋(松江大橋、新大橋、宍道湖大橋、くにびき大橋)を極力通らないこと。
- 自然災害等によりあらかじめ定めた避難経路が使用できない場合は、島根県及び松江市は、被災状況を踏まえ、道路管理者等の協力を得ながら避難経路の再調整を行い、迂回路や代替経路の設定などを実施。
- 県警察においては、避難経路の設定を踏まえて、交通誘導対策を実施。



・上記の迂回路や代替経路の設定について、令和元年度原子力総合防災訓練では、鹿島地区の一部・生馬地区・古江地区の主要な避難経路である宍道湖北部の経路(国道431号等)がいずれも通行できないものとして、宍道湖大橋を用いて宍道湖南部の経路(山陰自動車道等)へ迂回する代替経路を設定。また島根地区の主要な避難経路である国道314号も一部通行できないものとして、迂回路を設定。

PAZ内における自家用車で避難できない住民の数

- PAZ内の松江市4地区(鹿島、生馬、古江、島根)を対象とした個別訪問調査の結果、自家用車で避難できない住民は、合計1,196人。
- バスにより避難する住民は、徒歩等で各一時集結所に集合し、バスで避難先に避難。

地区		人数
松江市	鹿島地区	785人
	生馬地区	132人
	古江地区	157人
	島根地区	122人
合計		1,196人

